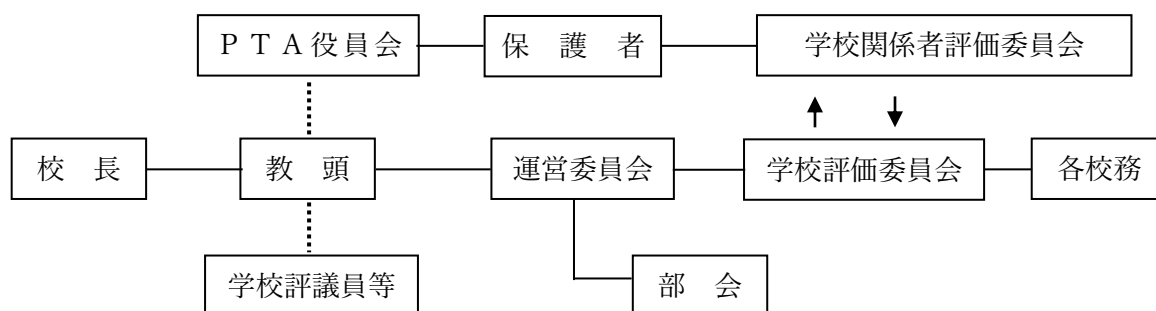


学 校 評 価

(1) 学校評価のための組織



(2) 学校評価の年間計画

時期	項 目	会議等
前 期	① 本年度の課題・重点目標の発表 ② 各部・分掌の重点目標、方策の立案、評価シート作成 ③ 全職員の共通理解 ④ P T A役員への学校評価の説明と協力依頼 ⑤ 保護者への説明 ⑥ 学校評議員会開催 ⑦ 教育活動の中間評価報告・方策の見直し ⑧ 評価の分析と中間報告のまとめ	職員会議 各部・校務分掌会 職員会議 P T A役員会 P T A総会 各部・校務分掌会 学校評価委員会
後 期	① 学校評議員、P T A役員会へ中間報告 ② 保護者への報告 ③ 教育活動の最終評価 ④ 本年度のまとめと次年度の計画案づくり ⑤ 評価と分析、最終報告のまとめ ⑥ 全職員の共通理解 ⑦ 評価 ⑧ 次年度の教育計画の確定	学校評議員会、P T A役員会 個人懇談会、H P 部会、分掌会 部会、分掌会 学校評価委員会 職員会議 学校関係者評価委員会の開催 職員会議

(3) 本年度の学校評価

重 点 目 標	1 授業づくり 2 安全で安心できる環境づくり 3 働き方の改善		
項 目	重点目標	具体的方策	留意事項
1 授 業 づ く り	学習指導要領を基に教科のねらいを意識した授業づくりを行う。	<小学部> 各教科等を合わせた指導の中で、各教科等の目標・内容を偏りなく扱っているかについて確認・検討する場を設定し、共有を図る。	・4月の部会で小学部教育課程編成表1表（授業時数）の重要性について確認し共有する。 ・学年会や学年主任者会、小学部教育課程検討会を活用して、確認・検討を行う。検討結果を部会で共有する。

<p>障害特性についての理解を深め、つながりのある指導・支援を行う。</p>	<p><中学部> 中学部で押さえるべき学習内容を把握して授業計画に反映させ、生徒の実態や評価の3観点を踏まえた授業実践を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示された各教科の学習内容を確認して、年間指導計画の見直しや新規作成を行う。 ・年間指導計画を基に、単元指導計画を立案し授業実践を行う。特に合わせた指導については、どの教科のどの学習内容を押さえているのかを共通理解した上でねらい、活動内容、指導や支援の手だてを検討・実践する。 ・生徒の実態、評価の3観点を踏まえた上で生徒の主体的な取組を引き出す仕掛けを工夫する。 ・実践した授業を部会で報告し、良かった点、改善点を共有する。 ・今回の取組を通して、中学部の教育課程編成表の見直しを行う。 ・いきジョイも活用し、効率よく実践につなげる。
	<p><高等部> 令和6年度の教育課程メジャーバージョンアップに向けて、部全体でカリキュラム・マネジメントを進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「いきジョイの実現を目指した、もっといい授業、もっといい学び」「いろいろな大人、いろいろな友達の中で、自分らしく学び、力をつけよう」を合言葉に教育課程編成表や年間指導計画などの再編を進める。
	<p><施設内学級> 個々の特性を理解し、個に合わせて柔軟に対応しながら授業を実践する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個に合わせた授業を行う中で、教科に偏りが出ないように活動内容を検討する。 ・児童の実態を明確に捉え、教材の工夫や授業の改善に努める。 ・病棟との連携を図り、完全な環境の中で安心して授業が実践できるようにする。
	<p><教務部> 授業づくりを支える教務関係様式の活用方法や個々の職員に期待したいカリキュラム・マネジメントの方向性を示し、授業力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教務関係書類書き方講習会を今年度も新転任者対象と各部職員向けの2回実施し活用方法の理解を図る。 ・教務関係書類の作成・活用に関わる情報をよりコンパクトにまとめ、Teams等のツールを利用して多くの職員が必要な情報を閲覧できるようにする。 ・部会等の機会を利用し、各部の教育課程編成について理解を図り、カリキュラム・マネジメントの意識を高める一助にする。
	<p><研修部> 「いきジョイ（校内研究）」に全校で取り組み、育成を目指す三つの資質・能力を踏まえた授業づくり（教科別指導）について全教員で共に考え、学び合う中で、授業力の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「青い本は授業づくりの相棒！」を合言葉に、学習指導要領に沿った各教科の授業づくりについて検討するワークショップを8回計画し、実施する。 ・小学部、中学部、高等部、教務部等と連携を図り、ワークショップに反映させたり、いきジョイの内容を還元したりする。 ・外部講師による研修会を実施し、教員の専門性の向上を図る。
	<p><保健体育部> 食育を推進し、望ましい食生活の育成のために、啓発活動を行い、つながりある支援を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内アンケートを実施し、児童生徒の実態を把握するとともに、授業や給食指導の中で、個に応じた支援を進めていく。 ・食に関する指導について、校内で情報共有するとともに、取組を食育だよりで発信する。

		<p><自立活動部> 児童生徒の発達段階とその特性に合わせた支援方法についての理解を広げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動だよりや自立活動相談報告を通して、児童生徒の発達段階に合わせた関わり方や教材教具などを紹介する。 ・作業療法士による専門的な研修会を行い、身体面の発達の理解とその発達段階に合わせたよりよい支援方法についての理解を深める。
		<p><教育支援部> 児童生徒の支援において、関係機関との連携を図り、障害特性に応じた支援方法を提案する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豊田市こども発達センターとの相談会、豊田市強度行動障害専門支援員派遣事業を活用する。 ・必要に応じて、授業づくりの参考になる情報発信を行う。
<p>2 安全で安心できる環境づくり</p>	<p>お互いの人権を尊重した環境づくりに努める。</p> <p>事故や災害における組織的な体制を整えるとともに、個々の対応力を深める。</p>	<p><小学部> 児童も職員も安心して笑顔で過ごすことができるように、気兼ねなく発言や行動ができる環境をつくらせたり、成長につながる適切な関わり方を学ぶ機会を設けたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・働き方の合言葉「笑顔で、無理せず、前向きに」の浸透を図る。 ・児童全員が5時目で下校する金曜日の6時間目を会議設定しない自己裁量の時間とし、必要に応じて、気軽に「ちょっといい？」と声を掛けて児童の話や小さな相談ができるような時間とする。 ・学年会や部会等で、成長につながる適切な関わり方について、情報共有したり振り返ったりする機会を設ける。
	<p>情報発信に努め、保護者、関係機関、地域との連携を深める。</p>	<p><中学部> 学習環境を整え、生徒の活動や部の取組を発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権に配慮した指導・支援の実施と振り返りをする機会を設定する。 ・教室の構造化、整理を一層進め、分かりやすい学習環境をつくる。 ・指導・支援に困った生徒については、教育支援部や外部機関とも連携し、学年、部などで情報を共有し、チームで対応に当たる体制を作り、実行する。 ・環境づくりの成果や生徒が主体的に学習に取り組む実践などを積極的に通信、ホームページ等で発信する。
		<p><教育情報部> ホームページで、学校の取組を継続的に発信し、必要な情報が得られるホームページとしてのイメージを高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報を発信するコンテンツを整理し、更新頻度を上げる仕組みづくりを行う。 ・校内へ働きかけ、様々な角度からホームページの内容の充実を図る。
		<p><生活指導部> 緊急時における対応について、職員間の共通理解を深め、とるべき行動がとれるようにしていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練や研修を設定し、緊急時にとるべき行動について確認し、対応できるようにしていく。 ・情報収集をしたり関係機関と連携したりして、事故や災害時によりの確な行動ができるように準備をする。
		<p><進路指導部> 教員や保護者に向けて、進路に関する発達段階に応じた情報を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部では、小学部の教員に向けて、児童の具体的な進路先について、写真や動画を交えて分かりやすく伝え、児童の進路先についての知識を深める。 ・中学部では、進路情報連絡会で保護者に進路に関する意識を高めるため、卒業生の保護者に講演を依頼する。チャレンジ体験では、近隣の福祉サービス事業所を見学して、将来の進路先について意識をもてるようにする。 ・高等部では、教員や保護者に向けた進路の手引きを作成し、進路に関する情報を自分で確認できるようにする。

		<p><保健体育部> 校内の破損個所や不要物を洗い出し、撤去・改善を図り、安全で安心して学校生活を送れる環境づくりを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内巡視を定期的に行い、破損個所の確認を行うとともに、不要物を撤去する。
		<p><教育支援部> ニーズに応じたサポートや情報発信を進め、地域との協働体制を構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談活動、授業研修を中心に支援方法に関する情報を提供する。 ・各種研修会等で、本校の専門性を生かした取組を発信するとともに、情報交換や情報共有を通して、協働体制を構築する。
3 働き方の改善	各種会議・委員会の目的と運営の在り方を考え、会議の質を高める。	<p><高等部> 円滑で適切な意思決定のできる会議や情報共有を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「意思決定は、立ち話ではなく会議（起案）」『「伝えた』ではなく『伝わった』が大事』を皆で意識し、その在り方を模索する。 ・意見が分かれたときは、「①感情・感性」「②考え方・価値観」「③利害」の対立なのか冷静に分析し、③の解決を優先する。
	ICT を活用した業務の効率化を図る。	<p><総務部> 職員室内のロッカー等の整理整頓を行い、物の位置や表示等を改善するとともに ICT を活用した業務の効率化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室内のロッカー等の整理整頓を呼びかけ、物の位置や表示等を改善する。また、文書データの整理整頓を呼びかけ、みよしねっとを活用していく。
	職員一人一人の生活や働き方を認め、支え合う職場づくりを進める。	<p><教務部> 行事等実施後に次年度の計画の素案を作成し、次年度の係に引き継げるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・反省を検討し、改善点等を踏まえた素案を作成しておくことで、年度初めの繁忙期の業務削減を行う。
		<p><研修部> 個々の教員の働き方に合った研修を受けられる環境を整える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・Teams を活用し、多くの教員が必要な情報を閲覧したり、研修会の動画や資料等を共有したりできるようにする。
		<p><教育情報部> 校内サーバーの整備及びデータの整理を進めて、必要な情報を利用しやすい環境づくりを行う。 ICT 機器や Teams の利用の定着を図り、学校全体の ICT の利用を促進する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サーバー内のデータの積極的な整理を行い、利用目的のしたファイル形式の支援などを行う。 ・Teams を活用した連絡と共有のための、システムの周知と定着を図る。 ・Teams を活用して、ICT 機器の活用法や、ICT を活用した実践事例の共有を行う。
		<p><自立活動部> 自立活動に有効な動画を発信し、業務の効率化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動に有効な動画を自立活動部で作成したり職員から募ったりして、学校全体でそれらの動画を共有する。動画作成の業務を減らすことで、効率化を図る。
			<ul style="list-style-type: none"> ・障害特性に応じ、教科のねらいを意識した授業づくりを行う。 ・お互いの人権を尊重しつつ、一人一人が自分事として考えた安全で安心な環境づくりと支援を行う。 ・会議や委員会の質を高め、無駄をなくし職員の働き方の改善につなげる。
	学校関係者評価を実施する主な評価項目		